本を選ぶ

NO.496 2026年（令和８年）９月２０日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

https://www.las2005.com

本社 〒102-0084 東京都千代田区二番町 1-2-235 TEL=03-6908-4643

●＜ろん・ぽわん＞連載「著者は誰でしょう？」
・玉錦からフランス国家まで
・君たちはどう読むか！
・君たちはなにを食べていたか

●選書の法則：S．R．ランガナタンからの187のメッセージ(34)

● DM かたろぐ

ろん・ぽわん

玉錦からフランス国家まで

昭和12年に山本有三と吉野源三郎共著で刊行された『君たちはどう生きるか』（新潮社）が、昭和23年に吉野単独著となったことと、その間に昭和20年８月15日という歴史的な経験をしたことを踏まえて、今まで少し丁寧に読み比べをしてきました。もう少し歴史的経過におつきあいの程を。

まずは、昭和12年版からの抜粋です。

①「ナポレオンだろうが、ゲーテだろうが、――いや、太閤秀吉だろうが、乃木大将だろうが、すべて、長い長い人類の歴史の中から生まれて来て、またその中に死んでいった人々なのだから。」

②「日本の歴史は神武天皇以来二千六百年といわれ、」

③「浦川君とこの小母さんと来たら、叔父さんとてもすごいよ。まるで玉錦さ。油のいっぱいはいった、こんな大きなお鍋を、よいしょっていうと、一人でもちあげちまうんだからね。」

では第一問です。ここにあげた三つの文章には、昭和23年吉野源三郎著で刊行されたときに、変更が加えられています。おわかりの向きもおありでしょうが、①「乃木大将だろうが、」が削除され、②「神武天皇以来二千六百年」が、「二千年といわれ」に、③「玉錦」が「おすもうさん」に変わっています。「乃木大将」と「神武天皇」は言うまでもないので、「玉錦」のご紹介をしておきます。玉錦は実在したおすもうさんで、昭和８年に横綱昇進、昭和13年享年35才、現役のまま盲腸炎で亡くなるまで、年二場所時代に６年間にわたり横綱を張っていました。その間一人横綱の時代が長く、「けんか玉」と言われながらも面倒見の良さでも知られていたそうです。

それでは第二問です。初版で、①孟子という支那の賢人、②支那の何億という人々、③支那の農民と書かれていた「支那」は、23年版でいかように？　①は孟子という中国の賢人、②と③は中華民国に変わっています。肯首。肯首。

続けて第三問にまいりましょう。東京都にお勤めでないとご関心がないかもしれませんが、①東京市、②本所区、③城東区はどうなったでしょう。東京府東京市から東京都に変わった年をごぞんじならば簡単。昭和18年７月１日、東京府東京市は東京都に、本所区は墨田区に、城東区は江東区に変わっています。ところが、23年版では、①は東京都になっていますが、②と③は本所区と城東区のままです。また、「フランスの国歌になっているマルセーユの歌」は、初版では、正しく「アロン・ザンファン・ド・ラ・（パトリーユ）……」ですが、23年版では「アロン・ザンファン・ド・ラ・パトリ」となっています。

編集レベルでどんないきさつがあったのでしょうか。どうやらほかにもありそうです。

話題が主人公のコペル君からそれてしまいましたが、今度は、中学一年生の彼が読んだ本をあなたの図書館でリクエストしたいと思いますので、その節はよろしく。（編集部）

No.144（1997年5月20日）掲載

選書の法則：
S．R．ランガナタンからの 187 のメッセージ（34）

吉植 庄栄

３４．選書業務で使う情報源・下＆選書業務の分析

『図書館選書論第２版』の内容を、ランガナタンがよく使った架空の対談方式で紹介している。ついにこの本の最終局面に突入したところ。今回は選書業務で使う情報源についての続きと、選書業務の分析について紹介していく。

【登場人物】

○ランガナタン：図書館界のビッグスターS.R. ランガナタン（1892-1972）先生。引き続き選書論を解説中だが、いよいよゴールも見えてきたところ。

○第一法則くん～第五法則くん：ランガナタンの著作『図書館学の五法則』に出てくる各法則。内戦も終わって、みんなで力を合わせて盛り上げ中。

○今回はテーマが２つです！

ランガナタン（以下「ラ」）：前回は、選書業務で参照する資料について考えた。

第一法則くん（以下「一」）：色々な参考になる資料があり、勉強になりました。

第二法則くん（以下「二」）：そして、思った以上に色々な資料があり、出版物の分野も様々な切り口があることが分かりました。

ラ：そうだな。

第三法則くん（以下「三」）：加えてこの『図書館選書論第２版』が刊行された1960年代と違って、インターネットに支えられた現代での選書の情報源を考えてみました。

ラ：うむ。紙のチラシ・広告とインターネットの情報の併用をする選書業務について考えたよな。全部インターネット万能で良いわけではなく、紙媒体の情報源も選書担当者には現在も有効ということを確認した。

第四法則くん（以下「四」）：まどろっこしーってえの・・・！って思ったけど、紙ってさすがだよな。買う本が決まっていれば、インターネットでぱぱっと検索してがーっと発注しちまえば良いんだけど、何かいいのねえかい？って場合には、やっぱり紙のチラシも使えんだよな、ちきしょうめ。

第五法則くん（以下「五」）：私も「成長する有機体」を主張する立場ですが、その中心には変わらぬものがあるという立場でもありますので、前回の最後のくだりは興味深かったです。

ラ：そうだな。さてそれで、前回は時間切れになった選書の情報源の話を続けた上で、今回は更に選書業務の分析について学んで行こう。

一：あれ、先生！？今回は話題2つなのですか？

ラ：その通り。ちょっと大人の諸事情でだな、今回はイレギュラー的に2話題扱う。

四：おおぉ！せっかちなおれっちには、さいこーだね！？

二：ま、まさか！？機○戦士ガ○ダムが52話構想から43話に短縮されて最後駆け足だったとかを想起しちゃいますが。

ラ：ぎくっ！？ん一詳しいことは言えないのだがな。ちなみに、○ンダムは再放送から大ヒットしたという。話の本質が重厚なので最初は理解者が少なく、その後、じわじわヒットしていったのだ。顰みに倣って目に見えない本質を追おうではないか。さて、始めるぞ。

一～五：はーーい！

○書誌の種類

一：まずは、前回に引き続き書誌についてです。先生、選書で使える書誌を教えてください。

ラ：うむ。まずは、以下の通りだ。

- 全国書誌
- 輸入本カタログ
- 参考図書の書誌
- 雑誌の書誌
- 抄録の書誌
- 翻訳本の書誌

二：順番に教えてください。

ラ：了解だ。まずは全国書誌だが、その国で刊行

された図書や雑誌といった様々な刊行物を網羅的にリスト化したものである。考え方次第だが、その国の出身者による刊行物や、その国の言語によって書かれている刊行物を網羅的にリスト化したものもいう。よくあるのが、その国の中央の国立図書館に納本された図書をリスト化したものだな。
三：なるほど、どのような出版物があるか網羅的に把握できるのですね！？どんなタイトルがあるのですか？
ラ：インドだとIndian National Bibliography、イギリスだとBritish National Bibliographyといったものがある。
四：国単位だけなんですかい？インドだと州ごとに言語が違うってめんどくせー事情があるから、それで済むわけねーんぢゃねーすかね？
ラ：おおぉ！よく言ったその通り。州ごとにそれぞれの言語の刊行物の書誌があるぞ。
一：筆者さんの国、日本はどうなのしょうか？
ラ：そうだな、儂も不勉強だが日本の国立国会図書館が、『日本全国書誌』というものをかつて刊行していた。これは国立国会図書館の開館後、『納本月報』→『国内出版物目録』→『全日本出版物総目録』→『納本週報』→『日本全国書誌．週刊版』と変化してきたものだ。現在は、『全国書誌データ検索』、『全国書誌（電子書籍・電子雑誌編）データ検索』となってオンラインで提供している。
二：へー、もう80年近く続いているんですねー。
ラ：うむ、伝統の全国書誌だな。では次に輸入本カタログだ。外国書を買わなければならない大学図書館だと特に重要だ。インドは歴史の関係で、イギリスの新刊図書情報が特に重要であった。
三：現在でも、英語で書かれた外国書や学術雑誌は世界中の大学にとって必需品ですよね。
ラ：そうだな、これらは公共や学校図書館よりも大学図書館で重要である。次に、参考図書のリストだ。第四法則くんの時にも述べたが、当時は現代のようにインターネットで瞬時に検索できる訳ではないので、利用者の時間の節約のため、良質な参考図書を重点的に選書したものだ。現代では一般的な事柄は、インターネットで調べればすぐに分かるが、ニッチな話題や特殊な分野はまだまだ参考図書の意義がある。
四：そうそう、おれっちのパートでやったよねー。でも、相変わらずマニアな分野は専門的な事典見ないとわかんねーんだよな、めんどくさ。
ラ：まあな。しかし、その分調べ甲斐もあるし、事典存在の意義があるものだ。
五：あとは抄録や翻訳本ですよね。これらはやはり成長して、インターネットの世界に移行しているのでは？
ラ：うむ、まあそうとも言える。学術雑誌は電子ジャーナルに移行し、各論文の抄録が本文の上に書かれていることが多い。それを画面上で見ることは容易になった。また、原著と翻訳の本のデータはリンクが貼られて、相互にまとめて検索が可能になった。
五：ですよね。やはり相当な部分がインターネットに移行しましたね。
ラ：そうだ。だが、何度も言うが紙には紙の意義や用途があり、存在意義があるのだ。今後もしばらくはニッチなテーマや特定の分野に絞った書誌が作成されて行くに違いない。

〇選書業務の分析

ラ：さていよいよ最後のパートだが、選書業務の分析について話をしよう。
一：これまでは選書に対する考え方が中心でしたが、実際にどのように業務を遂行するかについてですね？
ラ：そうだ。まずは、選書業務というのは図書館の各部門にまたがった業務であることが前提だ。図書館の事務部門の中には様々な担当がある。それぞれが様々な業務を分業することにより、総体としての図書館が円滑に運営されるのだ。
二：１人はみんなのために、みんなは1人のために・・・みたいな感じですかね？
ラ：そんな感じだ。難しく言えば、個にして全体、全体にして個ということだ。
三：日本に伝わった我がインド由来の仏教でも「一即多・多即一」という世界観がありますよね。
ラ：そうそう、個と全体は相互関係で切っても切れない関係だな。これを「Ekavakyata(=Unity)」と

表現する。
四：で、選書業務ってのは、まさにその体現だって・・・こと？
ラ：その通りだな。選書業務で失敗すると、図書館全体に大きな影響を与えてしまう。極端な例だが、誰も読まないような図書ばかり選書する図書館は、利用者の足が遠のいてしまう。
三：まさに私「すべての図書にその利用者を」ですね！
ラ：その通り。それを防ぐためにも、科学的に業務を分析し常に検討することが大事である。
五：どのように分析するのですか？
ラ：まずは業務を細かく分けて、十進分類法のような列挙型で分類をしてしまう。
一：へー！？業務も分類するのですか？
ラ：そうだ。業務を体系的に分類することで、無駄や重複を発見しやすくし、円滑な業務遂行や改善の種とするのだ。
二：どのように分類するのか、是非教えてください。
ラ：分かった。まずは、時間だ。毎日やる業務と年に1度やる業務といったように切り分けて考えたい。そのため、以下のように分類する。

1．すぐにやる業務
2．１時間単位でやる業務
3．時々やる業務
4．毎日の業務
5．毎週の業務
6．毎月の業務
7．季節ごとの業務
8．毎年の業務

三：なるほど。
ラ：そして、仕事も大分類、中分類、小分類と展開して分けて行く。儂の編み出したコロン分類法のように、この大中小を「：」で区切ってみる。
五：業務の分類も知りたいです！
ラ：了解だ。大分類に当たるのが次の通りだ。

1．選書の情報源に関する業務
2．選書業務
3．発注業務
6．予算業務

これは儂の著作『図書館管理法第2版(Library Administration, 2nd ed., 1960)』の選書業務の抜粋である。４、５は選書に関係ない業務なので省略させてもらった。
四：そこでよ、師匠、頼むから例を教えてくれよ！そろそろ頭がついて行けねーぜ。
ラ：分かった。では例を挙げよう。

【例1】２：２：５８=選書カードのファイリング（毎週の業務）
最初の2：業務の大分類：この場合は「選書」
2番目の2：業務の中分類：この場合は「選書カードの業務」
58の5：毎週の業務（さっき示した時間の分類から）
58の8：カードのファイリングの業務

四：図書館の分類のようにどんどん展開していきやがんの。この番号の意味を覚えていれば、分析も慣れて行くって寸法ですかい？
ラ：うむ、そうだな。で、このやり方で業務の細かい部分を列挙し、分析をしていくのだ。
四：もうちょっと教えてほしいぜ、ちきしょーめ。
ラ：そうだな、あと２つくらい挙げよう。

【例2】１：２：１１=選書の情報源の入手（すぐにやる業務）
最初の1：業務の大分類：この場合は「情報源」
2番目の2：業務の中分類：この場合は「情報源入手の業務」
11の左側の1：すぐにやる業務
11の右側の1：有用な選書の情報源を目にしたらメモを取る業務
→ここが2なら、ある特定テーマでの選書の情報源の情報収集＆メモ

【例3】６：６：８２２=各費目の予算積算業務（毎年の業務）
最初の6：業務の大分類：この場合は「予算」
2番目の6：業務の中分類：この場合は「予算案作成業務」
822の8：毎年の業務
822の22：各費目の見積業務

一：なるほどー、結構細かい業務まで分類するんですね！？で、分析した後のコツを知りたいです。
ラ：うむ。まずはルーティン業務だ。ルーティン業務とは日々決まっていて繰り返される「やらなければならない」業務のことだ。管理上必ずやらねばならないものを指す。
二：どこの職場でも必ずありますよね。
ラ：そうだ。この分析が最初だな。まずは迅速さ、正確さが求められる。そして、このルーティン業務で一杯にならないよう、無駄を省くことを常に検討せねばならない。
三：そのための業務分類と業務分析ですね？具体的にはどうしたら良いのでしょうか？
ラ：まずは基本の考えだが、個々人のやり方がバラバラ、心身ともに力を要する業務、物や空間、そして時間を消費しすぎる業務を見直すべきだ。
四：だよなー。うめーやつは、ぱぱっと仕事を終わらせるけど、手間かけすぎる奴って居るよな。（筆者さん・・・耳が痛い。注：この回も締め切りを守れていないです。詫）
ラ：そうなのだ、人それぞれやり方があるので、手際良い者も居るが長々と時間をかける者も居る。ゆえに仕事を簡素化の上に標準化して、誰でも大体同じ時間で終わるようにせねばならない。
一：分かりました。具体的にはやはりICT化といったことが有効なのでしょうか？
ラ：それはもちろんだな。今まで手作業でやっていたことが、機械やシステム、ICTの力で非常に簡素化でき生産性が向上する。
二：分かりました。その改善点を見つける種が、先ほどの業務分類なのですか？
ラ：その通り。特に選書業務は最初に述べたように図書館の全体に関わる業務なので、業務を体系的に分類したことで、部署間の重複業務が発見できれば、無駄を省くことができる。
三：なるほどー。なんか分かります！大きな組織になればなるほど、離れた部門で似た仕事をルーティン業務にしてしまい、いつの間にか重複して無駄になっているってことですよね。
ラ：そうだな。組織が大きくなると必然的にそうなるものだ。次に、記録をつけるのも大事だぞ。
二：記録とは業務日誌みたいなものですか？
ラ：その通り。日々の業務記録を後で分析すると、無駄に力を費やしているものが見えて来る。時間が経って振り返ると、やったことの有効さとか無駄さに気づくことができる。
一：そうですよね。目の前のことに夢中な時は、先が見えない中その時のことで目一杯です。でも後で振り返ると色々結果が出ているので、解釈や評価ができますよね。
ラ：その通り。時間も労力も限られている中、最大限のパフォーマンスを出せるよう、日々の業務の分析は欠かせないのだ。
五：なるほど！そこから改善の芽を見つけて、成長する種とできますよね。
ラ：そうなのだ。まさに第四法則くんの「時間の節約」と第五法則くんの「成長する有機体＝組織体」だな。

〇大体終わったよ

一～五：で先生、以上が最後のパート、つまり『図書館選書論第２版』の内容紹介は終わり・・・？ってしれっと言っていましたよね！？
ラ：そうなのだ。
しかしな、以前から言っているように最初の方はかなり端折った内容だったし、今見ると見直しも多い気がする。
一～五：で、どうするのですか？
ラ：うーーーん、まだよく分からない。煮え切らなくてすまんが、これからも細々とでもいいので補遺を話す機会があればとは思っている。それこそこの連載を始めて10年以上経ち、今の境涯から振り返ると無駄もあれば、ふくらますべきだったという種もある。
五：先生も成長していますね！
ラ：うまく言うな（笑）。しかし、核心は変わらぬものであって欲しいものだ。時代が変われども変わらない何かをこれからも伝えて行きたい。これからもよろしくな。
一～五：はーーーい！お供いたします！！

（よしうえ　しょうえい：東北学院大学文学部）

（１頁よりつづき）

君たちはどう読むか！

昭和12年に出た『君たちはどう生きるか』では、主人公・コペル君の、「大学を出てからまだ間もない法学士」の叔父さんが中学生の甥にあてて書いたノートが、ひとつの柱となっています。

中学生が抱える悩みや疑問に、お説教臭さを感じさせずに分かりやすく回答するのは難しいことです。同書が、名著として今に至るまで版を重ねているのは、この課題を巧くこなしているからなのでしょう。

実はこの叔父さん、なかなかの業師で、込入ったことを説明するのに、「読んで知ってると思うけど」とか、「読んでみたまえ」などと本を助っ人にして、話をすすめているのです。

叔父さんに頼られた本というのは、

①「こういうことは、『人間はどれだけの事をして来たか』を読んで知っているにちがいない。」

②「このことも、君の年で、十分に正しく理解することは、まだむずかしい。大体のことは、『人生案内』の「社会」という部分を読めばわかるけど、これについては、」

③「もし暇があったら、君は『人類の進歩につくした人々』という本を読んで見たまえ。」

④「君は『世界の謎』の中にある『謎の文字』を読んで知っているだろうが、」

の４冊です。多分コペル君は、おすすめの本を読んだのでしょう。というのも、「『世界の謎』で仕込んだ知識を吐きだして」、電流とはどんなものなのか友人に説明しているのです。

『人間はどれだけの事をして来たか』は、（一）（二）とあって、著者は恒藤恭と石原純、『人生案内』は水上滝太郎、『人類の進歩につくした人々』は山本有三、『世界の謎』は石原純で、いずれも新潮社から出ています。もうお分かりでしょうが、この４冊は、山本有三・吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』と同じ日本少國民文庫16冊の中に収められています。しかも、『君たちは』は、シリーズ最後の刊行ですから、件の箇所でぼくも読んだとうなずいて、コペル君を一層身近に感じた読者がいたと思われます。

さて、昭和23年に『日本少國民文庫』が、11冊で新たな出発をしたとき、『君たち』の著者は吉野源三郎ひとりになりました。小誌125号でご紹介済みなのですが、このとき、『人類の進歩につくした人々』の著者も山本有三から吉野源三郎に変わりました。著者はその前書きで、当時「自分の名で本を出すのをひかえたほうがよい事情にあった」こと、「山本先生が（略）著者としての責任を取って下さった」ことを言っています。

ところで、前記４冊の内『人生案内』は、新シリーズに入らず、「このことも、君の年で、十分に正しく理解することは、まだむずかしい。これについては…」と書名の部分が削られています。

蛇足ながら、昭和12年版の『人間はどれだけの事をして来たか』『人類の進歩につくした人々』『世界の謎』は東京都立日比谷図書館で所蔵しています。もう一歩蛇足を付けると、同じく新シリーズに入らなかった里見弴著『文章の話』が平成５年、岩波文庫に蘇えりました。（編集部）

NO.148（1997年9月20日）掲載

君たちはなにを食べていたか

『君たちはどう生きるか』の主人公、コペル君は中学二年生です。三学期のある日、コペル君のおやつは、お母さんが「作って下さった」ホットケーキでした。その日学校で、仲良しの浦川、北見、水谷の三人の友を裏切ってしまったコペル君は、精神的な苦しみから、ホットケーキも夕食も喉をとおりませんでしたが、ほんとうは風邪をひいて熱があったのです。数日学校を休んで、少しよくなると、お母さんは、「おひるはオムレツにしてあげようか」「ロシア菓子を取って来てあげようか」とコペル君に声をかけます。

どうやらホットケーキやオムレツやロシア菓子はコペル君の好物のようです。でも、油揚は「好きになれないものの一つでした」。「油揚というものは、コペル君はめったにたべたことがありません。時たまお膳にのぼることがあっても、たいてい、箸をつけずにしまいます」。

その油揚をお弁当のおかずに入れてくる浦川君を、同級生みんなが馬鹿にしています。それというのも、「浦川君のうちは、豆腐屋さん」ですが、「同級の生徒は、たいてい、有名な実業家や役人や、大学教授、医者、弁護士の子供たち」なのです。コペル君はお母さんと二人で暮らしていますが、お父さんは大きな銀行の重役でした。そのお父さんが亡くなってから、コペル君とお母さんは、「旧市内の邸宅から郊外の小じんまりした家に引越し」「召使の数も減らして」「ばあやと女中が一人」なったのです。

二学期の期末試験が近くなって、浦川君が二三日学校を欠席しました。

「三日も休めば、たいてい、仲のよい友だちが見舞にゆき、その消息がわかるのですが、浦川君には誰も見舞にゆくような友だちがありません。そう気がついたので、コペル君は、急に浦川君をたずねて見る気になりました」。

「小石川のある大きなお寺の前で電車をおり」、「やっと自動車がはいれるくらいな、狭いごみごみした通りがあって」、一間半か二間間口の「魚屋、八百屋、焼芋屋、米屋、駄菓子屋」が軒をつらね、「カツレツ十銭、コロッケ七銭」と書かれた半紙が店先にたれさがる肉屋の隣の鯛焼屋の隣が浦川君のうちでした。

浦川君は、お父さんが「何百円か、何十円か」のお金の工面をしに田舎に帰り、住込の職人が風邪でふせってしまったので、学校を休んで店の手伝いをしていたのです。コペル君は歓迎されて、鯛焼がだされました。「コペル君としては、鯛焼を食べるのは、これがはじめてでした。コペル君のお母さんが、決して、粗末なお菓子を食べさせないからです。ああいうものをたべるとおなかを悪くするといい聞かされていたので、コペル君自身も、食べたいと考えたことはありませんでした。しかし、実際に食べてみると、おなかがすいていたせいか、なかなかうまいと思いました。」

食べ物についての興味深いエピソードはまだ続きますが、残念ながらまたのお愉しみ。（編集部）

NO.149（1997年10月20日）掲載

『君たちはどう生きるか』の刊行から89年。
1995年～1999年の本誌連載「著者は誰でしょう？」をリバイバルでお届けしています。
引き続きお楽しみに。（編集部）

DMかたろぐ

広い世界の芸術にふれる全３冊！

美術にふれる絵本セット

ハリエット・ヴァン・レーク / ワウター・ヴァン・レーク 作
野坂悦子 / 訳　●A4 変 / 平均 26 頁 / 定価：本体 4,400 円＋税

モンドリアン / ヒルマ・アフ・クリント / エゴン・シーレ

朔北社　〒191-0041　東京都日野市南平 5-28-1-1F
TEL042-506-5350 http://www.sakuhokusha.co.jp

E. アンダーソン／
齋藤純一・大庭 大・小林卓人 訳
プライベート・ガバメント

会社はいかに私たちを支配するのか
職場の「私的統治」を問う。 3520円

谷口祥一・緑川信之
最新解説 知識資源のメタデータ

最新の理論／ツールに基づき、体系的に説明。 6050円

勁草書房（けいそうしょぼう） TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854 ＊価格税込
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 https://www.keisoshobo.co.jp

君主制原理
その生成、終焉、そして遺産

長谷部恭男 著
君主制は存在し，君主は現前する。一時代を画した君主制原理を繙き，その現代的存在を明らかにしながら，主権論と天皇制の将来を展望する憲法思想史の試み。

A5判 定価6,050円

有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17 https://www.yuhikaku.co.jp/ 価格は税込

牛山素行
豪雨災害から身を守る
災害情報学からのヒント
「起こる前にどうするか」を考える。30年間におよぶ災害現場での研究・調査に基づき、豪雨災害にかかわるさまざまな疑問を徹底解説する必携の一冊。 1870円

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11 Tel 03-3518-4940 https://www.shobunsha.co.jp/

メンタライゼーションに基づく
摂食症治療

ポール・ロビンソン
フィン・スコールデルード
ベンテ・ソンメルフェルト＝著
西園マーハ文＝監訳 星野 大＝訳
10月上旬刊
複雑な摂食症の心理や臨床をメンタライジングの視点で捉える新たなアプローチ。
●定価4400円(税込) ●ISBN 978-4-535-56447-3

量子コンピュータ×AI＝イノベーション
西野哲朗＝著
これからの時代の新たな情報リテラシーを身に付けよう！
●定価2420円(税込) ●ISBN 978-4-535-79033-9
10月上旬刊

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4 ☎03-3987-8621 https://www.nippyo.co.jp

医療・看護・心理・教育・建築から考える
「こども まんなか社会」ってなんだろう
子どもの成育環境を再考する

三輪律江／斎尾直子／安部芳絵／湯川嘉津美／高橋尚人 編著
＊四六判美装カバー292頁 3080円

大豆生田啓友氏推薦
「こどもまんなか社会」への学際的問いは、私たちの未来を問う重要なメッセージ

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1 TEL075-581-0296 ※価格税込

ESTRELA
■2026年9月号
No.390/9月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

〔特集〕 地球物理と統計

■地震学と統計学の接点―地震波形データ解析の観点から―／長尾 大道（東京大学地震研究所 准教授）

■台風はどこへ進むのか～ 観測から予報円ができるまで／中野 満寿男（国立研究開発法人 海洋研究開発機構 情報地球科学研究部門 データサイエンス研究プログラム プログラム長代理）

■AI・機械学習による宇宙天気予報の高度化
―太陽フレア予測から運用利用まで ／飯田 佑輔（新潟大学工学部 准教授）
西塚直人（国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT） 電磁波研究所 主任研究員）

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル５階
TEL : 03-3234-7471 https://www.sinfonica.or.jp/